

世界のオンリーワンブランドを信念に、自ら海外市場を開拓！ (株式会社 野呂英作)

会社概要(平成23年12月現在)

- 所在地:愛知県一宮市浅井町大日比野字下55番地
- 代表者:代表取締役 野呂 英作
- 資本金:1億円
- 売上高:非公表
- 従業員数:25人
- URL:<http://www.eisakunoro.com/>

①事業概要

<毛糸製造・販売>

職人の手と感性で丁寧に作られるNORO Yarn NOROブランドは世界で有名になった。つくり方は非常に繊細でアナログであり、職人の手で色を並べ生産している。

糸を買って、その編み方まで教えるというビジネスモデルである。特許などの権利はとっていない。あえて技術情報も開示している。カタログは2万冊、ノウハウも全部オープンにしている。そのため世界中で真似されているが、真似されることをまったく恐れていない。同社の糸づくりの哲学は他社では真似が出来ないからである。ユーザーは糸から感じる情熱を理解してくれていて、それが高い信頼感につながっている。

②海外展開概要

<北米、欧州への販路開拓>

世界に通用するオンリーワン企業になるために、自社ブランド開発を40年かけて目指してきた。

約40年前からアメリカに営業へ行き、アメリカ人との商談がきっかけで海外展開が始まった。

アメリカやヨーロッパでは手作り志向が高く、手作りで製品を作る文化の土壌があった。同社の狙う市場は、世界では30億円くらいの規模である。

現在では約50カ国、主要国35カ国と取引を行っている。ドイツ、イギリス、フランスではパートナーが販売会社をつくって営業している。今後は上海へも発信していく。

③取組の重点(活用した支援策を含む)

海外展開に方程式はない。権限のある人が直接営業してYES-NOをその場で答える。

日本国内は流通構造が複雑だが、世界の流通構造は意外と簡単である。自社ブランドで直接取引が原則。

製品に価値があっかつマーケットにないものならば必ず成功する。日本人の技術開発は世界のオンリーワンになれる。一宮を中心とした尾州産地は世界に誇れるものがある。世界にないものを作って、もっと海外を目指して欲しい。

④今後の事業展開について

製品に対する自信を持ち、社長自らが世界中を営業して回ったことで、世界でのブランドポジションを獲得した。毎年出荷できないほどの受注残を抱えている。まだ海外展開は3合目であり、5合目を目指している。日本で若い人材を積極的に採用し、5~10年かけて技術を伝授している。若い社員と共に世界のオンリーワンをめざしている。夢を与え頑張っている。

必要なことは6つ。

- ①マーケット開発
- ②商品開発
- ③人材育成
- ④設備の開発
- ⑤販売促進の充実
- ⑥理想の企業体質作り

これらの実践により、国際競争で勝ち抜く強い企業にしてゆく。

